

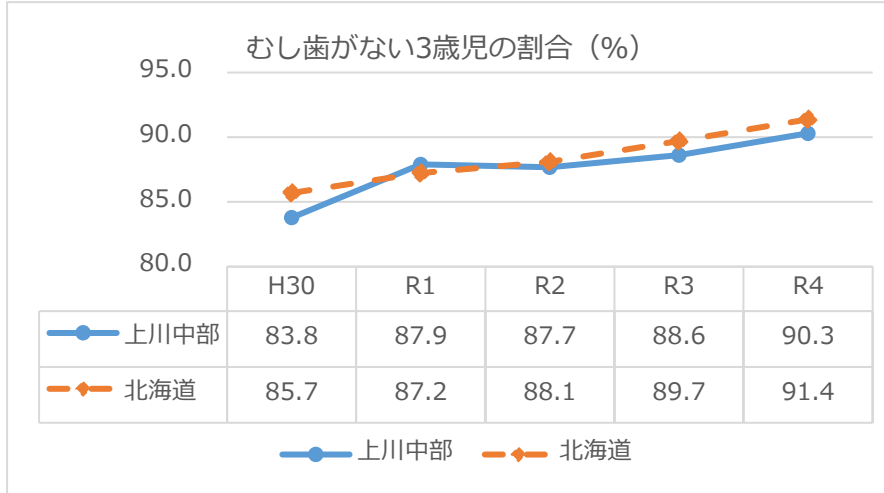
第2節 歯科保健医療対策

1 地域歯科保健医療

(1) 現状

- 乳幼児期の歯・口腔の健康状態

乳幼児のむし歯は減少傾向にありますが、当圏域におけるむし歯のない3歳児の割合は90.3%と全道91.4%より低くなっています。*1



- 学齢期の歯・口腔の健康状態

上川総合振興局内(上川・名寄・富良野保健所)の12歳児(中学1年生)の1人平均むし歯数は、平成29年度、令和2年度とも全道平均と比べ少なくなっていますが、全国平均と比べ多くなっています。

【12歳児の1人平均むし歯数】*2

12歳児	上川総合振興局	北海道	全国
平成29年度	0.86本	1.26本	0.82本
令和2年度	0.79本	1.02本	0.68本

- 成人の歯・口腔の健康状態

「8020(ハチマルニイマル)運動」の目標である80歳で20本以上の歯がある者の割合について、当圏域のデータはありませんが全道では(46.5%)全国平均(51.6%)と比べ、低くなっている状況にあります。

【80歳*における1人平均現在歯数及び20本以上の歯を有する者の割合】*3

1人平均現在歯数(本)		20本以上の歯を有する者の割合(%)	
北海道(令和4年)	全国(令和4年)	北海道(令和4年)	全国(令和4年)
15.9	17.0	46.5	51.6

*75~84歳のデータから算出

(2) 課題

当圏域のむし歯のない3歳児の割合は全道平均と比べ低くなっています。また、12歳児の1人平均むし歯数は全道平均と比べ少ないものの全国平均よりは多く、更なるむし歯の改善のためには、乳幼児期から学齢期における早期のむし歯予防対策や、生涯を通じて必要な歯科保健医療サービスを利用できるようにすることが求められています。

*1 地域保健・健康増進事業報告(平成30年度~令和4年度)

*2 北海道:公立学校児童等の健康状態に関する調査 全国:学校保健統計調査

*3 北海道:道民歯科保健実態調査 全国:歯科疾患実態調査

(3) 施策の方向と主な施策

- むし歯予防のため、幼児期における早期からのフッ化物利用と保育所・学校等におけるフッ化物洗口を推進します。
- 歯周病予防のため、定期的な歯科健診・適切な保健指導を受ける機会の確保に努めます。
- 歯科医師会等の関係団体と連携しながら、様々な機会を通じて、「8020 運動」等の地域住民の歯・口腔の健康づくりについて普及啓発を行います。

2 障がい者歯科保健医療**(1) 現 状**

- 「北海道障がい者歯科医療協力医制度」に基づき、1市1町に18名（令和5年11月現在）が協力医に指定されています。
- 障がい者歯科診療を専門に担うため、旭川歯科医師会が道北口腔保健センターを昭和55年に設置し、障がい者の歯科診療や摂食嚥下リハビリを行っています。

【道北口腔保健センターの診療内容】

設置主体	所在地	診療内容
一般社団法人旭川歯科医師会	旭川市金星町1丁目	障がい者歯科診療 摂食・嚥下リハビリ

(2) 課 題

- 「北海道障がい者歯科医療協力医制度」については、協力医の確保及び質の向上が求められています。

(3) 施策の方向と主な施策

- 旭川歯科医師会等と連携し、障がい者歯科医療協力医・協力歯科衛生士や道北口腔保健センター等により障がい者歯科保健医療の確保を図るとともに、障がい者関連施設や在宅障がい者の歯科保健医療対策を推進します。

3 高次歯科医療及び休日救急歯科医療**(1) 現 状**

- 口腔悪性腫瘍患者や全身疾患等を有する患者への歯科医療など、高度な歯科医療に対応する歯科口腔外科を標ぼうする病院（以下「病院歯科」という。）は、令和5年度末現在で8施設となっています。
- 道北口腔保健センターにおいて、日曜、祝祭日、年末年始など、多くの一般歯科診療所が休診となる日に救急診療を行っています。

(2) 課 題**(高次歯科医療)**

- 高度な歯科医療を必要とする患者等への適切な歯科医療の確保を図るため、病院歯科などの高次歯科医療機関と歯科診療所との病診連携が求められています。

(休日救急歯科医療)

- 道北口腔保健センターにおける休日救急歯科医療の継続が必要となっています。

(3) 施策の方向と主な施策**(高次歯科医療の提供体制)**

- 大学病院や旭川歯科医師会等の関係団体と連携しながら、地域における病診連携や保健医療福祉関係機関の連携を促進し、適切な高次歯科医療を提供できるネットワークの充実に努めます。

(休日救急歯科医療)

- 休日救急歯科医療については、道北口腔保健センターで実施するとともに「北海道救急医療・広域災害情報システム」を活用した医療機関情報の提供を行います。

(歯科医療機能情報の提供)

- 地域住民が適切な歯科医療機関を選択できるよう、病院歯科を含む歯科医療機関の医療機能情報をホームページ等により提供します。

4 高齢化に伴う歯科保健医療対策**(1) 現 状**

- 後期高齢者の増加に伴い、認知症を有する高齢者の増加も見込まれますが、認知症の人は口腔内状態（清潔保持、歯の数、咀嚼機能等）が不良であるという研究結果が報告されています。
- 旭川歯科医師会が道北口腔保健センターにおいて、平成 25 年度から通院が困難な要介護高齢者等を対象に在宅歯科診療を行っています。
- 平成 28 年度には、旭川歯科医師会館内に道北三次医療圏を対象とした道北圏域在宅歯科医療連携室及び旭川市民を対象とした旭川地域歯科医療連携室が設置され、通院での歯科受診が困難な要介護高齢者等を対象として、歯科治療や口腔ケアに関する相談及び在宅歯科診療の申込みを受けています。

(2) 課 題

- 認知症に伴う口腔内状態の不良は、誤嚥性肺炎のリスクとなります。誤嚥性肺炎は、高齢者の死亡原因にもなることから、その発症を予防することが重要です。
- オーラルフレイル^{*1}は、フレイルの前段階であると考えられています。早期にオーラルフレイルに気づき、口腔機能の向上に取り組むことが重要です。

(3) 施策の方向と主な施策

- 低栄養と誤嚥性肺炎の予防のため、高齢者に対する歯科専門職による口腔衛生管理^{*2}・口腔機能管理^{*3}を推進します。
- 口腔ケアが誤嚥性肺炎の予防につながる等、口腔と全身との関係について広く指摘されていることから、口腔ケアが重要であることの普及啓発を行います。
- オーラルフレイルは、早期の対応により健康な状態に近づくことができることから、高齢者が適切な歯科治療や定期的な歯科健診を受けたり、介護予防の取組に参加するよう普及啓発を行います。

* 1 オーラルフレイル：歯の喪失や食べること、話すことに代表されるさまざまな機能の『軽微な衰え』が重複し、口の機能低下の危険性が増加しているが、改善も可能な状態

* 2 口腔衛生管理：口腔清掃を含む口腔環境の改善など口腔衛生に関わるプロフェッショナルケアの総称

* 3 口腔機能管理：口腔機能の回復及び維持・増進に関わるプロフェッショナルケアの総称

歯科保健医療対策のイメージ図

